

## 緩和ケア病棟

# さとわ

No.14

さとわ

### 緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

### 郷和の1年を振り返ってみて

施設長 篠川 主



「郷和の15周年祭」を平成28年10月1日、晴天に恵まれ、郷和の1階フロアにて開催させて頂きました。それに続く記念行事として、平成29年3月11日、日本の緩和ケアのパイオニアである、淀川キリスト教病院理事長・名誉ホスピス長・大阪大学名誉教授・ホスピス財団理事長、柏木哲夫先生に御願いし「ホスピス緩和ケアのこころ」を深める、という御講演を開催させて頂くことができました。五泉市内外より非常に大勢の方が参加して下さいまして、大盛況の講演会であったと感謝しております。

郷和では様々な行事を通じて入院中の患者さん、家族の皆さんの心の安らぎ、社会の風に触れていただく機会を設けております。昨年は新たに夏祭りを、憩いの間にて開催致しました。患者さん、家族の方々の笑顔があふれておりました。

働きの悪い綿アメ製造機もございましたが今後更に精進を重ね、改良・パワーアップしていきたいと考えております。また様々の行事を支えて頂いておられるボランティアに新しい人達が加わって下さいました。皆様の御活躍を期待しております。

平成29年は郷和に138名の入院がありました。しかし郷和に入院予約をされた方でも、入院できなかった方も多くおられました。看護スタッフが十分でなく待機期間が長くなってしまふこともその要因の一つでした。4月からは看護スタッフの増員となりますので、少しでも皆様の御要望にお答えしなければならないと覚悟を新たにしております。今後ともよろしく御願い申し上げます。

「郷和」に緩和ケア医として勤めさせていただいたのが一昨年の9月でした。この原稿を書いている時点で1年半がたちます。仕事自体もそうですが、通勤の方角や日常目にする景色が以前の勤務先とはずいぶん変わりました。もともと五泉市で生まれ育ったので、こののどかな環境は懐かしい気持ちになります。

この1年半でたくさんの経験を積ませていただきました。これから自分自身も緩和ケア病棟「郷和」としても、医療とケアの質をもっと高めていこうと思っています。近隣の医療機関と連携して円滑に紹介いただくこと、一般病棟での緩和ケアに「郷和」

での経験や考え方、ワザといったものを紹介して役立ててもらうことも重要だと思っています。さらに、緩和ケアそのものや緩和ケア病棟をたくさんの方に知ってもらうことを今年の課題にしたいと思っています。

今年12月8・9日、新潟市朱鷺メッセで「死の臨床研究会」という緩和ケアの全国大会が開催され、10月にはそのプレ企画が開催されます。大会のメインテーマは「いのちと死、ひらかれた看取り」で、新潟県での開催は24年ぶりになります。介護医療関係者はもちろん市民の方むけの企画も用意しています。どうぞご参加ください。



## イベント行事の様子



5月 手品ショー



8月 ライアーコンサート



12月 クリスマスコンサート

平成29年3月に、自宅で義母を看とりました。胃がんでした。

終末期を迎えた義母と家族が、療養先として選択したのは自宅でした。幸い、家の近くに在宅療養支援診療所があり、お世話になることにしました。在宅療養支援診療所とは、在宅療養をされる方のために、その地域で主たる責任をもって診療にあたる診療所のことです。在宅療養支援診療所は、以下の項目を満たすこととなっております。

1. 患者様を直接担当する医師または看護師が、患者様およびそのご家族様と24時間連絡を取れる体制を維持すること。
2. 患者様の求めに応じて24時間往診の可能な体制を維持すること。
3. 担当医師の指示のもと、24時間訪問看護のできる看護師あるいは訪問看護ステーションと連携する体制を維持すること。
4. 緊急時においては連携する保険医療機関において検査・入院時のベッドを確保し、その際に円滑な情報提供がなされること。
5. 在宅療養について適切な診療記録管理がなされていること。
6. 地域の介護・福祉サービス事業所と連携していること。
7. 年に一回、在宅でお看とりした方の人数を地方厚生(支)局長に報告すること。

このように、自宅で療養する方が医療サービスを受けるにあたり、医師や病院を探したり様々な事業者と連絡を取り合ったりしなくてすむように、かかりつけ医として一元的に療養管理する責任を負うのが在宅療養支援診療所の役割です。(引用：日本訪問診療機構ホームページ)

義母は、抗がん治療が終了してすぐに、この診療所の在宅緩和ケアを受けることになりましたが、医師・看護師・薬剤師・ケアマネージャー・行政・介護用品レンタル業者とスムーズに連携しており、私は介護休暇をとる必要もなく、安心して療養のサポートをお任せすることができました。亡くなる5日前まで家族の介助を受けトイレで排泄し、点滴をするのも、体をきれいにするのも、義母の意思を尊重した方法で行いました。大変な時期もありましたが、やれるだけのことをやったという思いが家族の心の癒しになりました。また、この経験は「郷和」で働く自分にとっても、これまでの看護を振り返り、新たな課題を見出す貴重な経験となりました。

在宅死に関する研究では、ホスピス(緩和ケア)サービスを利用して在宅死した患者の遺族は、ケアへの満足度が高いともいわれていますが、緩和ケア病棟「郷和」でも、家庭的な雰囲気の中、患者様とご家族様に安心して過ごしていただけますよう、日々努力を重ねております。それぞれの患者様・ご家族様の価値観と意思を尊重しながら、「郷和」に来て良かったと思って頂けるようなケアを提供していきたいと考えております。これからも、どうぞよろしくお願いたします。



4月14日	お花見	12月22日	クリスマス会
5月26日	手品ショー	1月13日	鏡開き（おしるこ）
6月23日	コースター作成	1月26日	初釜
6月30日	ゴスペル	2月 3日	節分 豆まき
7月28日	ゴスペル	3月 3日	ひな祭り
8月25日	ライアーコンサート	3月23日	オカリナ
11月24日	蕎麦打ち		

### 「郷和」利用状況

（H.28年4月～H.29年3月）

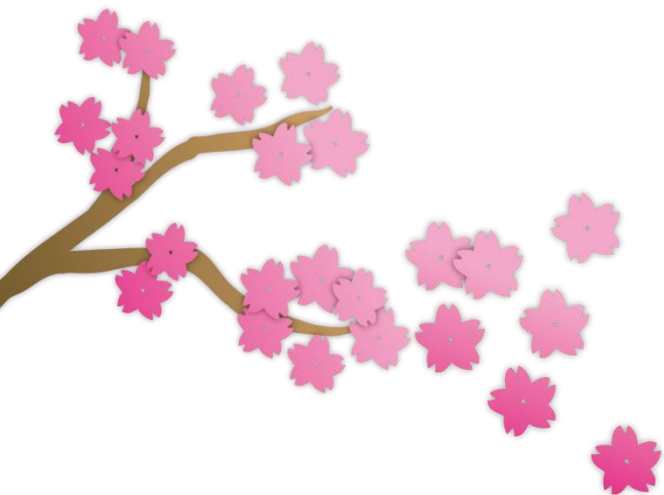
入院患者数 111名

退院患者数 111名  
（死亡退院 104人）  
（自宅退院 5人）  
（介護病棟 1人）  
（施設 1人）

一日平均入院利用者数 13.5名

平均病床利用率 67.3%

平均在院日数 44.2日



発行年月日 平成30年5月31日

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300

ホームページ <http://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/>

メールアドレス kosei@sinjinkai.or.jp